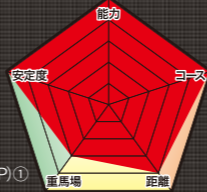


# 瞬発力勝負なら 世代最強レベル! デキの維持と東京の長い 直線が課題

## マカヒキ

友道康夫(栗) 川田将雅騎手  
父 ティーフインパクト  
母 ウィキウィキ(フレンチデビューティ)  
主な戦績  
皐月賞(GI)②、弥生賞(GII)①、若駒S(OP)①

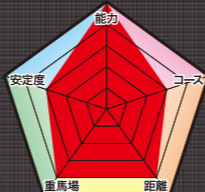


**水上学の洞察** 皐月賞で直線の伸び脚が目立っての2着で、最もタービーで見直されるタイプの走りを見せたが、ティーフインパクト x 母父フレンチデビューティの配合だから、おそらくは小回りコースでの瞬発力に長けた追い込み馬ではないだろうか。またティーフとデビューティミニスター系の配合が、こことく「前哨戦ホース」であることも気になる。弥生賞が究極のパフォーマンスであり、あれ以上を望むのはなかなか難しいと思う。

**明石尚典の分析** 新馬=11秒1→11秒2、若駒S=11秒0→11秒1、弥生賞=11秒3→11秒3。皐月賞までのV3はいずれもラスト2ハロン11秒台という極限の切れ味勝負だった。2分を切った弥生賞、1分58秒1の皐月賞と走破時計も優秀だが、ラスト2ハロンの爆発力こそがこの馬のストロングポイント。ただ、一瞬の切れを武器とするだけに府中向きかは微妙なところ。人気過剰なら割り引く手もある。

## リオンディーズ

角居勝彦(栗) M.テムロ騎手  
父 キンカカメハメハ  
母 シーザリオ(スペシャルウィーク)  
主な戦績  
朝日杯FS(GI)①、弥生賞(GII)②



**水上学の洞察** 皐月賞では近年稀に見るハイペースを途中から自ら引っ張っていく形になり、それでも直線半ばまでは押し切るかの構えを見せていた。最後はさすがにバテてしまったが、負けてなお強し、改めてこの馬の高い能力を思い知らされた。強風を見込んで早めに動いた鞍上の判断がアタになってしまっただけで、決して力負けではない。タービー馬の座をつかむことができるかどうかは、道中の折り合い1つに掛かっている。

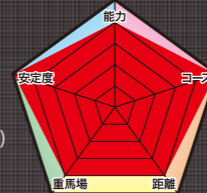
**明石尚典の分析** ラスト2ハロン 11秒1→11秒0の新馬戦、10秒8→11秒7の朝日杯FSを突き抜けたようにタメれば世代屈指の瞬発力を発揮する。問題はその瞬発力を引き出せないメンタル面。キャリアを重ねることに抑えが利かなくなっているのは減点材料だ。5ハロン通過 58秒4のハイペースを追いかけた皐月賞でも大崩れはせず。能力の絶対値は高いだけに、あとは折り合いひとつなのだが...

半兄がゴール寸前で逃してしまった  
ダービー馬の座は折り合い次第!



## ディーマジエスティ

二ノ宮敬宇(美) 蛭名正義騎手  
父 ティーフインパクト  
母 エルメスティアラ(フライアンズタイム)  
主な戦績  
皐月賞(GI)①、共同通信杯(GIII)①



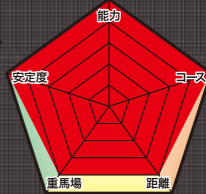
**水上学の洞察** 小回り中山への適性が決まると高いとは思えず、皐月賞4、5着あたりからのタービーで勝ち負けを想定していたら、皐月賞で異次元の切れを見せて勝ち切ってしまった。考えていたよりも強い馬だ。ティーフ産駒で、母系は欧州の良血、母はフライアンズタイムにサドラーズウェルズの配合、スタミナも豊富で、2400mに不安は微塵もない。東京ですでに高レベルの勝ち方を経験済み(共同通信杯)なのは大きなアドバンテージとなる。

**明石尚典の分析** 皐月賞で8番人気の低評価に甘んじた要因の一つが共同通信杯からの直行であったこと。人気馬の凡走に助けられたとアロク視されたものの、稍重で1分47秒4ならVタイムとしては上々。3ハロンことの分割も35秒8→36秒0→35秒6と能力がストレートに反映されやすい一貫ペースだった。タフなラップ構成でも未を伸ばせるのが最大の魅力。2分23~24秒台の決着なら当然、上位争いだ。



## サトノダイヤモンド

池江泰寿(栗) C.ルメール騎手  
父 ティーフインパクト  
母 マルベンサ(Orpen)  
主な戦績  
皐月賞(GI)③、きさらぎ賞(GIII)①



**水上学の洞察** 筋肉が柔らかくそう、胴の詰まった馬体にはかねてからアグネススタキオンに似ているというイメージを持っていた。先日急死した母マルベンサは、アルゼンチン系の名門牝系。南米血統は概して軽い走りをする馬が多い。ただ、距離適性は、マイルから2000mがベストのはず。中山のようなゴール前の急坂がないことは好転材料だが、ティーフインパクト産駒といっても2400mへの延長は決してプラスではないと思う。

**明石尚典の分析** 重の新馬戦が11秒7→11秒7→11秒5、稍重の500万下は11秒8→11秒8→11秒5→11秒3。いずれもラスト3ハロン加速ラップを突き抜けて臨んだきさらぎ賞もラスト2ハロンが11秒9→11秒3の加速ラップ。瞬発力レベルは文句なしの一級品も、本質的にはスムーズなギアチェンジで徐々に加速していくタイプ。皐月賞\*3強、の中で最も府中の長い直線が合うのは間違いないこの馬だ。

アンカツも認めた完成度!  
マイルから2000mが  
ベストの中距離馬!?

### サトノダイヤモンド 皐月賞はむしろ健闘の部類 ダービーでは敗戦濃厚!?

皐月賞では1番人気に推されたが3着に敗れてしまった。パドックを見る限り、誰も指摘したように仕上げも緩かった。ダービーに向けた仕上げで余裕残しだったようだ。しかし、皐月賞1番人気で、3着に敗れた馬は過去20年で9頭、ダービーを制覇したのはスペシャルウィーク、タニノギムレットの2頭のみ。ほとんどの馬が、ダービーでも上位人気に推され、3着もない状況。勝てば名馬間違いなし、2、3着でも健闘したといえる状況だ。皐月賞上がり3位で直接ダービーへ出走した馬の成績は「11秒11」という具合で、3着でも上出来というデータもマイナス。ただ、馬券になったのは全て10年以降の成績であり、近年のダービーではむしろよく走っているともいえる。プラス材料はティーフ産駒にしては珍しく操作性と先行力があること。ティーフプリランテのように早め先頭の競馬ならチャンスがあるかも知れない。

### マカヒキ

### 皐月賞上がり3F最速馬は 過去20年で7勝している

皐月賞を上がり最速で走った馬のダービーの成績は過去20年で「7(3-3-1)」という具合で、勝率26.1%を記録。つまり、過去のデータにのっとれば、4分の1の確率で1着になる可能性がある。3着以内なら確率は54.1%にも及ぶ。馬券圏内という意味では注目した1頭だ。皐月賞前に3強といわれた中では常に先着しているし、決め手の鋭さはダービー向きなのは間違いない。ただし、ダービーで好走する条件は鞍上にそのまま川田騎手が起用されること。ダービーでは乗り替わった騎手が勝てない傾向にあるからだ。4戦連続して上がり最速を記録したのも能力の表れだろう。マイナス面はやはり血統だろう。全姉のウリウリは今やスプリント路線を歩んでいる馬。体型や馬のタイプは違ってもいい、他のきょうだいも芝距離戦やダート戦を主体に使われていた馬ばかり。ダービーで巻き返す可能性も高いがマイナス面もある。

### リオンディーズ

### 展開に苦しんだ皐月賞だが 底力は兄エピソードよりも下!?

皐月賞の前半3Fは34秒2と速かったのは確かだが、半兄のエピソードが出走した皐月賞は前半3F34秒1、4角3番手で2着にしのいだことを考えると、少し持続力に欠ける印象もある。この2戦は引掛かり放しのレースはかりだと考えると、底力の高さは窺い知れるのだが、マカヒキには弥生賞、皐月賞と連続して先着を許した。強さや能力、素質は認めてもダービーで巻き返すには展開に相当恵まれないと敵いだらう。半兄のエピソードはダービーで2着している。父のキングカメハメハもダービーを制覇し、昨年産駒のドラクメが勝利した背景はプラスのはず。ダービー馬はダービー馬からという点では心強い材料も。皐月賞で4角先頭だった馬でダービーを勝利したのは過去20年ではサニーブライアンのみ。馬券になったのも同馬だけというようにマイナス材料も根強い。強さを認めても死角は多いようだ。

### ディーマジエスティ 皐月賞はブロックだった!? 稀代の名馬の可能性もある

皐月賞を単勝30倍以上の倍率で勝利したのは04年ダイワメジャー以来。そのダイワメジャーはダービーで6着。さらに遡ると単勝万馬券で皐月賞を勝利したノーリリーズはダービー8着。人気薄で皐月賞を勝利したのは実はマイナビ8着。ただ、97年皐月賞を単勝51.8倍で制覇したサニーブライアンはダービーを勝利。脚賞こそ違っても、大外18番枠での勝利と共通点は多い。また、皐月賞を4角10番手で勝利したのは過去20年でオルフェーヴルと同馬のみ(ただし東京開催)。中山での皐月賞を4角10番手以下で勝利したのはティーフ産駒のティーフインパクトとティーフインパクト(9番手)で制したのがアンライバルドとティーフインパクト)。また、皐月賞を上がり2位で勝利した馬は過去20年で3頭。ダービーでは全ての馬が掲示板を外している。勝算も多いが、皐月賞がハマっただけの可能性もあり、取捨選択に悩むところだ。